

新しい地域おこし協力隊 大川 修史さんを紹介します

おおかわ しゅうじ

埼玉県から来た大川修史さんが10月1日、新たな「幌延町地域おこし協力隊」として任用されました。大川さんには主に観光振興の分野で活躍していただきます。



自己紹介

大川修史と申します。英国への留学経験もあり、前職は英国車・イタリア車の販売をしていました。町民も移住・旅行者も、そして私もハッピーになれるような取り組み・施策を行いたいと思います。

趣味

1人で30カ国ほど旅行しました。特に岬巡りが好きで、ポルトガルの口力岬やギリシャのスニオン岬に行きました。北海道では宗谷岬や納沙布岬も訪れています。

特技

お酒や料理について語ることです。日本酒やワインの販売をしていたこともあり、プレゼントなど検討されている時はぜひご相談ください。イタリア料理店で働いたことがきっかけで、パスタやドリア、ティラミスなども作ります。日本蕎麦も好物の一つです。

今後の活動について

これまでの経験を生かし、他とは違った切り口で幌延の魅力の発信と価値の向上を図れると思っています。皆さんのご協力を得て、さまざまなイベントを開きたいです。温かく見守って頂ければ幸いです。どうぞよろしく願います。



地域おこし協力隊通信

vol.47



こんにちは、地域おこし協力隊の吉原ゆりかです。季節はすっかり秋に変わり、初物のジャガイモやタマネギ、秋鮭などのおすそ分けをいただき、秋の恵みを味わう日々を楽しんでいます。

9月30日、カヤックとカヌーで川を下る「モニターツアー」を行いました。幌延の観光資源の発掘を目的に、ガイドにサロベツ・エコ・ネットワーク職員を招きました。町内外の8名が参加しました。

コースは、下沼、浜里両地区をつなぐ音類橋おとんるいからサロベツ川に入り、天塩川に合流して天塩町の天塩河口大橋へ向かう14km。手つかずの自然が多く残っているサロベツ川では、時折、カワセミが川縁から現れ、渡り鳥が頭上を飛んでいくなどふだん見られないたくさんの発見がありました。

中間となる天塩川との合流地点は、海のような白波が立っていました。反対側の川岸を目指して川を横切る際、大きく船体が上下に揺れるなどスリリングさも味わえました。

昼食後、天塩川を下ろうとしましたが、波が高かったため、それまで漕いできたサロベツ川に戻ることにしました。川下りならぬ「川上り」でしたが、水面は穏やかで、透き通った秋空の背景に利尻富士を望みながら自然の雄大さを感じつつ、全員が無事ゴールできました。

後日、参加者と振り返り会を開き、川を活用した観光への取り組みについて検討をしていきます。



●町ホームページ協力隊コーナー「BaseTown」 / ●協力隊Facebook QRコード
<http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/www4/section/kikakuseisaku/le009f000000a9tp.html>

